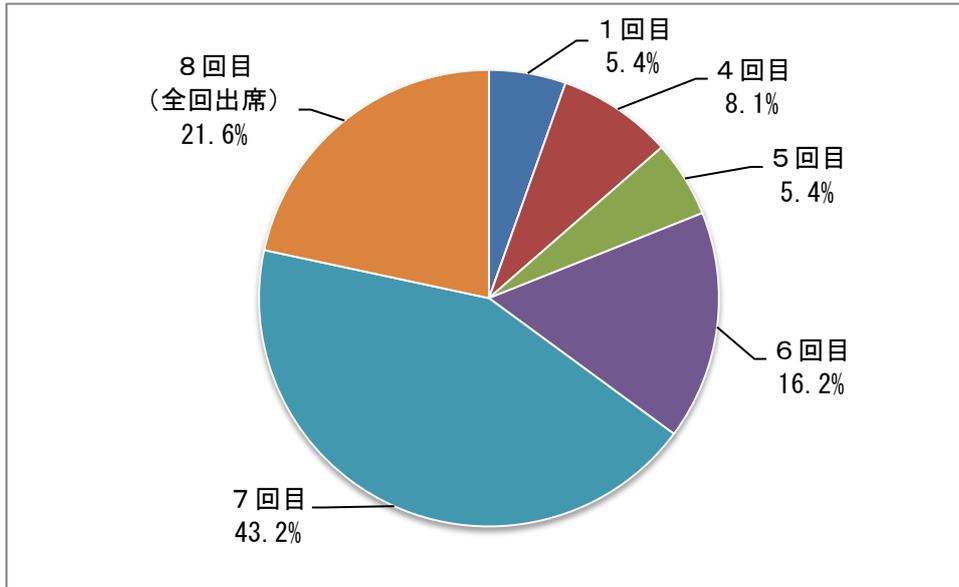


第8回 逗子の未来協議会 アンケート結果

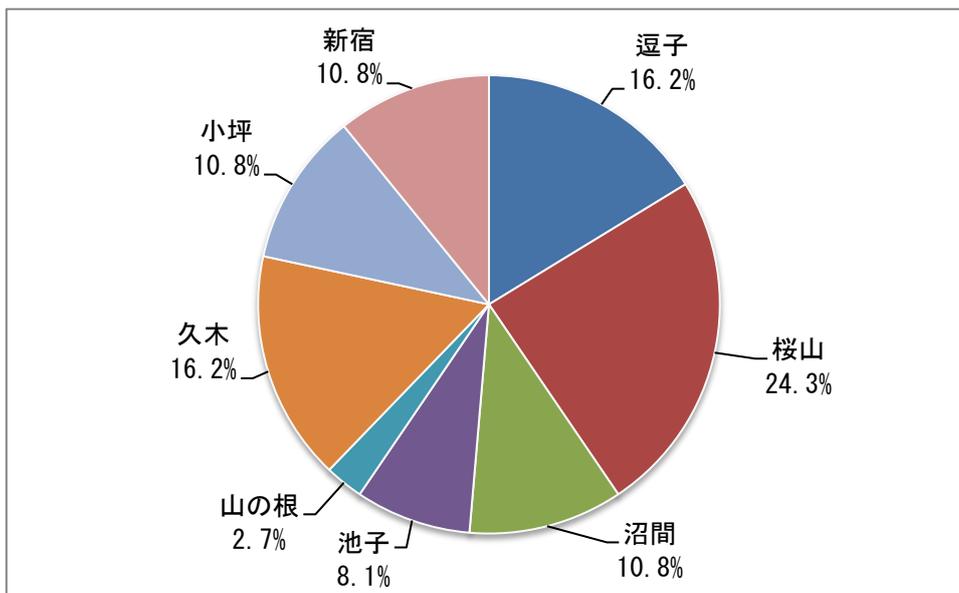
実施日：平成29年2月18日（土）

回収数：37（回収率97.4%）

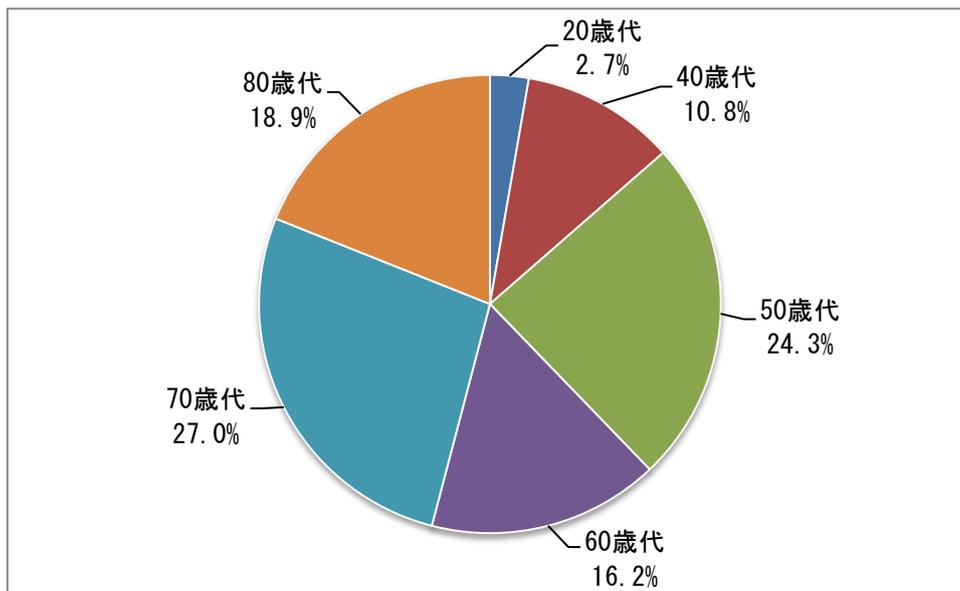
1 第8回参加者の参加状況



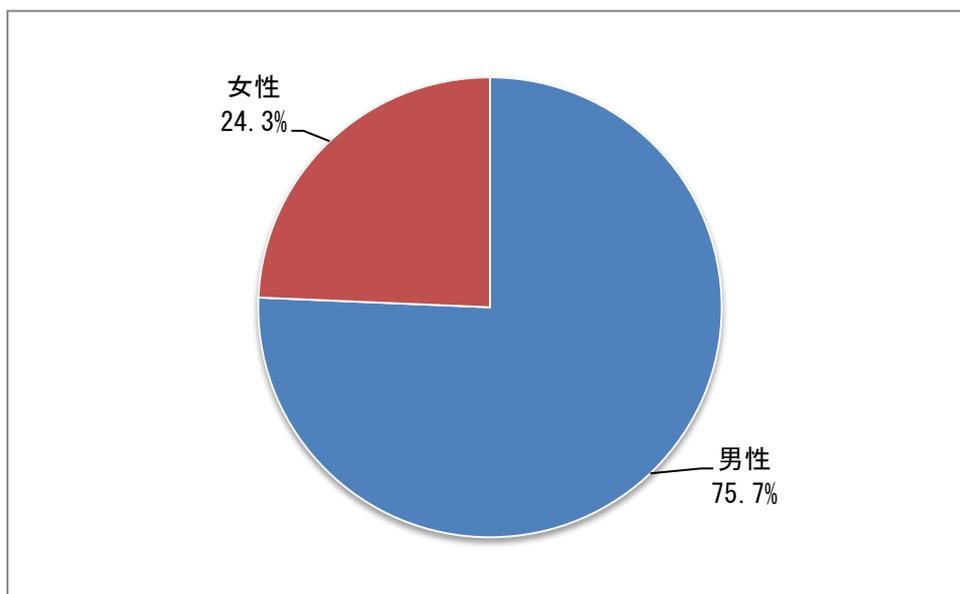
2 第8回参加者の居住地



3 第8回参加者の年代



4 第8回参加者の性別



5 「市民参加」を考える上で一番大切なこと、現状の「市民参加」をより有効にするための方法や仕組みの中で、一番よいと思ったこと（参加市職員の意見も含む）

＜市民参加に係る工夫・仕組み＞

- ◆ 平日の夜、市民活動のための集まりを行う。（若手世代が参加できる）
- ◆ サロン方式の市民参加活動、年代別の会は良いアイデア。
- ◆ 行政の考える「市民参加」ともっと柔らかく市民が楽しめるイベントへ「市民参加」とを融合して幅広い視点でたくさんの方々が参加し、意見交換を気軽にできる仕組み作りが重要ではないかと思う。
- ◆ 市民参加方法にインターネット活用を加えて、もっと幅広く活動する人数を増やしたい。
- ◆ 2つの方法を一緒に行う。
Face to Face の情報交流と…節目節目に是非必要
ホームページ、ネットにする間接的、直接的…特に時間の少ない若い人にとって重要
- ◆ 市民参加＝何かの活動に参加すると定義されているように思う。市民参加のハードルを下げる必要があると思う。行政が把握する市民参加だけではなく、1人で行う市民参加がたくさんあるので、これをレベルアップすることを考える必要があると思う。
- ◆ 小さな単位（回覧板を回すグループ）ごとに、〇×式程度の質問をし、市民の意見を集約するという小さなことから始めないと、市民全体の考えの方向性すら見えないと思う。最初は、〇×、YES、NO の単純な質問から始め、少しずつ短い文章が答えになるような質問をして、市民の意見、考えを知り、すくいあげていくのがいいと思う。
- ◆ 個々の関心がある事柄について参加すればよいということ。
- ◆ 一人でも問題提起を気軽にできる仕組みが必要。
- ◆ 市民参加するためにはどうするのかの情報システムが必要。
- ◆ 難しい抽象的な問いかけでは分かりにくいので、具体的なものだと分かりやすい。
- ◆ 市民参加の会議方式ではなく、時間を限定しない、夜・昼間・平日・休日などに設定し、行政の話だけでなく地域の話をするなどしながら参加する。（サロンの垣根を低くしたものを想定）
- ◆ 回覧板には〇×で回答できるような質問の仕方で、全員に回答してもらうような市民参加はいかがか。
- ◆ 「市民参加」をしたことによるアウトプット、成果・実感がわくこと。（言ってもしょうがない、どうせ変わらない、あきらめなくてはならない仕組み）
- ◆ パブコメを2回実施する（議論を深める）、市民がつくる情報誌。
- ◆ 市民参加をより有効にするには、誰でも参加しやすいようにグループ化等で閉鎖せず、誰でも声を上げやすい雰囲気と門戸を開くこと。

＜行政の対応・課題＞

- ◆ 市民参加に関心がもてるような仕組みや支援を行政が実施する。
- ◆ 行政の縦割り・PR法のまずきをまず打破。
- ◆ 意見は市民が言うべきであっても、それが行政に反映されないといけない。
- ◆ パブリックコメントの意見を吸い上げる手立てを考えていただきたい。
- ◆ 受ける行政は縦社会、部門間の調整力が必要。
- ◆ 逗子のホームページを工夫していただき、楽しく情報を得られるようにしてほしい。(興味持てるイベント等大きく取り上げるなど)。
- ◆ 特に市の行政に普段強い関心をもたない住民に対して、ある程度プッシュ型の情報提供が必要だと思う。(HP へのアクセスのようなプル型ではなく) 広報誌、回覧板(自治会)、掲示板、ポスティング、TEL/メール
- ◆ 市民参加のできる小作りの機会を作って欲しい。
- ◆ 公募制度、パブリックコメントが行政のアリバイ作りになっていないか。
- ◆ 行政の情報提供のあり方。
- ◆ 逗子市役所が「市民参加」に課題がある、参加率が低い等と認識しているのであるのなら、どのように分析し、対応方法を考えているのか検討することが大切。
- ◆ 今回多くの市職員が参加しているので、本日の市民の声・意見について参加した市職員が感想や考え方を認識して欲しい。
- ◆ 均等に情報が市民に伝わるのが大切。SNS を活用できる人と全く利用することができない人から、どのように意見を吸い上げるのか、各自治体がしっかり機能することが大事。
- ◆ 前回の情報共有で“理念”という言葉が気になっている。逗子市においても理念はあるのか？
- ◆ どんな人に意見をもらいたいのか、関心をもってもらえるのか？ターゲットを絞って情報発信の仕方を工夫する。
- ◆ 市と地元の町内会・団体とのパイプ連携をしっかりしてもらおう。

＜自治会・住民自治協議会＞

- ◆ 自治会に参加していれば参加しやすいと思う。高齢者の人は、自治会に入りやすい(元々入っている)ので、そのような方々の協力も必要では。意見の反映。
- ◆ 小学校区住民自治協議会は小学校区の自治会、町内会によって成立しているので、この仕組みを活用して、情報発信、情報収集をしていければ市民参加率は向上すると考える。
- ◆ 1 回目の話し合いグループにおいて、自治会・町内会の意見を集約する協議会があり、自治会の会員である市民はすでに参加しているとの話になった。
- ◆ 2 回目の話し合いグループでは、自治会役員がどう決まっているのか分からない、密室の中で決まっている既存のコミュニティに入りづらい等の意見があり、自治会や協議会の地域代表制の有無について考えさせられた。
- ◆ 住民自治協議会に集約して意見を出してもらおう。

＜周知の重要性＞

- ◆ 市民参加による成果とそのプロセスを市民に広く伝える。
- ◆ 市民参加以前として、期日の切れた回覧板が何度もくることを知って欲しい。
- ◆ 市民の自由的まちづくり活動を広報する。市民の周知が大切。
- ◆ 一番大切なことは、参加前に全市民にどのように情報を伝えることが第一と考える。市民が情報を知り、関心をもてば自ずから市民が色々なことに参加してくれると思う。
- ◆ 市民参加には、市政の情報を早く正確に十分に知ることができることが大切だ。情報は計画に先立って十分早く提供するべきだからその時期を早く設定すると規定するべきだ。
- ◆ 市民に市民参加を広報等にて知ってもらう。
- ◆ 市による市民参加に関わる PR（広報、インターネット）→方法や仕組み
- ◆ 市民参加制度があることを知らしめる。
- ◆ 住民に対して機会を如何に周知していけるかが、最重要ポイントだと考える。
- ◆ 市民参加の成功例を PR する。必要性を周知する。市民参加の方法を検討する。

＜市民の関心・意識＞

- ◆ 関心をもつ必要がある。（市民参加）
- ◆ 市民参加に対する関心をもってもらふこと。
- ◆ 市民の意識を変えていく必要が大きい。
- ◆ 広報誌、掲示板、インターネットなどでの情報発信を市民も関心・意欲をもつことが大事。身近な問題（例えば、健康）等の関心から参加していく。
- ◆ 情報発信を密にし、市民の意識を変えていく。分かりやすく。
- ◆ 思っても口に出さないことは何も言わないのと同じ。
- ◆ どう理解を深め、どう興味をもってもらふか。

＜若い世代の参加＞

- ◆ 若人の参加の少なさは彼らの事情が良く分かるので、その対策が第一と思う。
- ◆ 若い人を逗子市ホームページで参加できるように内容を変更する。
- ◆ 若い世代の人たちが参加できる制度を作る。”金曜日の午後は逗子のワークショップの日”を社会に認めてもらう。参加できればみんな意見は豊富にもっている。それを形にできれば行政は進む。
- ◆ 若い方々が参加できる制度を作る。（市民参加のためなら、勤務免除してもらえりような風潮を作っていく）

＜少数意見の尊重＞

- ◆ サイレントマジョリティーの無効性/無責任性を感じた人がいたことは大収穫。
- ◆ 意見を言う人はいつも同じ人で多くの市民は日々感じていることを口に出していないと思う。

＜市民参加の定義＞

- ◆ 参加ということだが、参画ではないところ、違いは何か？
- ◆ 市民参加とは何か、行政の施策に対しての意見を言うことか。日頃、地域の行事を行っていることか？
- ◆ 「市民参加」の定義を広く取り、個々が「市民参加」していることに気付くこと。そこからより積極的参加につなげる。
- ◆ 必ずしも声を上げるということが「市民参加」ではない。何もしないということも容認という市民参加をしているのである。
- ◆ 行政が考える「市民参加」と市民が考える「市民参加」は感覚（定義）が異なる。「市民参加」の定義を2つ定義する（または、緩やかな定義にする）等をして、整理することがまず大事だと考える。

＜意思決定過程への参加＞

- ◆ アセスなら事業アセスでなく計画アセスであるべきだ。
- ◆ 決定の場に「参加」するだけでなく、決定をどう実施していくかに「参加」する、できることこそよい形での市民参加なのではと思う。

＜市議会との関係＞

- ◆ 行政だけでなく議会も巻き込む市民参加。（行政と市民の対話だけでは不足、提案が否決されてしまうことを防ぐ）
- ◆ 何回か出席した間に、逗子の市会議員の議員の動きや役割（存在感）がほとんど（全く）ない。逗子の市議はボランティアという立ち位置にすればよいと思う。

＜逗子の未来協議会との関係＞

- ◆ この未来協議会の成果を次の市民の連帯、個別活動に結び付く方向へ向かって欲しい。特にこの会が50歳以下が50%もおられることに驚きと喜び。
- ◆ 最初のアンケートで「市民参加を行うための手段」を考えていたときに、パブコメ程度しか思い浮かばなかったが、この協議会への参加がそもそも市民参加であると気がついた。方法や仕組みで最善なことは思い至らないが、よいと思う方法は全て活用するのが重要なことかと思う。

＜自治基本条例への位置づけ＞

- ◆ 市民参加条例にもあると思うが、必要に応じてこの条例に盛り込みたい。
- ◆ 市民参加（意味を何個かに分けられる）について、参加することによって市の行っている行事は全て市民参加だという人もいる。自治基本条例に盛り込む（位置づける）市民参加は全員参加を基本とする。

＜課題＞

- ◆ 現役世代のほとんどは、日常の生活において市民参加できる時間がない。仕事に追われている。

- ◆ 新しく入ってきても、自治会に入りにくい。自治会に入れない人もいる。自治会の仕組み作りも大切。年齢の偏り。
- ◆ 市民参加はもう少し時間が必要と思う。今、市民参加が行われると協議会が困ることが多いと思う。急ぐことはないのではないか。
- ◆ 現実、市民の大多数は自分の家庭のことで手いっぱい、市民参加の場に出てくるのは同じ顔ぶれになってしまう。

<「市民参加」をより充実させていく上での課題>

- ◆ 私は、現在市民参加制度審査会の市民委員（現在、副委員長）を務めさせていただいています。ですから、このアンケートには、審査会の市民委員の一人としての立場で、日頃の審査会の中で現在の逗子の「市民参加」をより充実させるための課題と感じていることについて書かせていただこうと思います。委員会の中でなく、このワークショップのアンケートでこのようなことを述べるのは不適切であるかもしれませんが、自らにも若干違和感がありますが、毎回の審査委員会では手続き審査に手一杯で、しっかりとこういう発言をする時間や機会はなかなか得られないので、敢えてこの機会にメモにまとめさせていただくことにしました。よろしくご理解のほどお願いいたします。

逗子の「市民参加」をより充実させていく上で、私が必要と考える課題

私が市民参加制度審査会の委員を引き受けてから約 5 年が経過しました。

この間、市長はじめ行政当局（特に事務局たる市民協働課）のご尽力もあり、審査会委員長のご提言努力などもあって、逗子の「市民参加条例」そのものは改正なども重ね、大分充実したものになってきたと感謝し、また自負もしています。主なる改正点は、市民参加課題の対象の拡大、市民参加の方法の追加、審査会や懇話会の公募市民割合の増加と明確化、苦情・意見申し出方法の改善、審査会委員数の変更などですが、それぞれかなり大幅に進歩し、他の都市に先駆ける良い条例になってきたように感じています。喜ばしい限りです。

その意味では、方向性として市民参加、特に「市民参加条例」そのものの内容には問題がないように思われますが、真の意味での逗子の「市民参加」、行政に対する「市民参加」の充実ということを考えるとき、その実施という面で、私には未だ未だ不足している点があるような気がしてなりません。

それは何か?それはどういうことなのか?

市民参加条例そのものの内容は前述したように確かに充実の方向に向かい、市民参加制度審査会も相当に充実した審査を行っていると思うのですが、それでもなお真の市民参加を実現させるために未だ進めるべきことがあると指摘したいのは、実は、その条例内容を実行するに当たっての問題です。

市民参加制度審査会の市民参加条例上の任務は、市民参加条例が手続きの上で条文通り運用されているか否かの審査に限られており、条文内容の実行がどのように行われるかと言うことなどについては一切口を出しません。そこに市民参加制度審査会の大きな限界があります。このことを悪いと言っているわけではあり

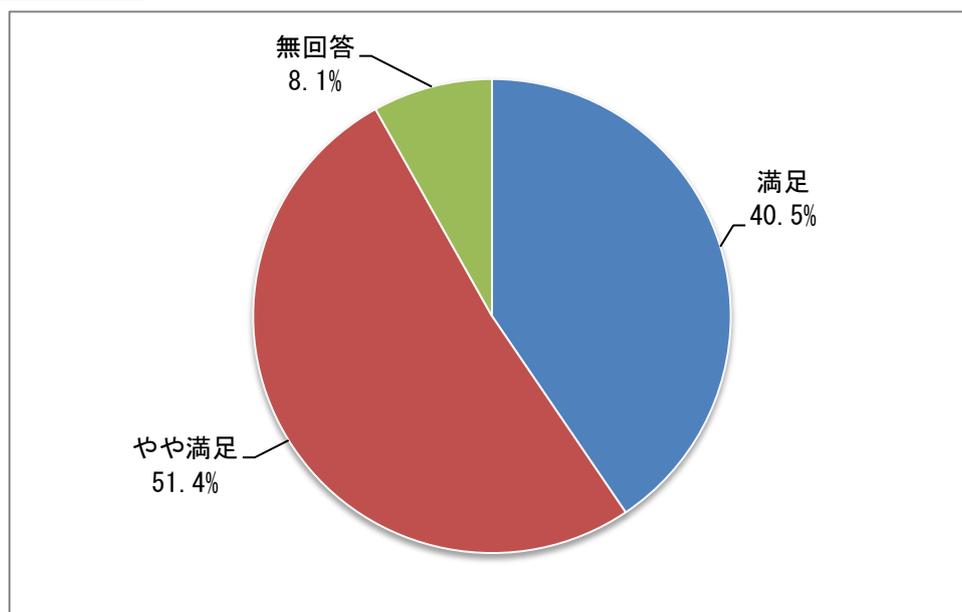
ません。寧ろ、行政各局にはそれぞれの分担があってその担当職務上の権限を持っており、それが審査会の権限外であることは当然と考えています。

しかしながら、真の「市民参加」が行われるためには、私は、実は条例の内容の実行がどのように為されるか・どのように担保されるかこそが重要ではないか?とを考えます。例えば、条例第7条に従って一つの市民参加の対象課題が決定し、それについて第8条の市民参加の方法が何か条例上の審議会に決まり、第10条により公募の市民委員2名を決めて、審議することとします。

この審議に、どのような市民参加が行われて議題の結論が出されたか、即ち、どういった市民が参加してどういった市民意見が出されてそれがどういった形で審議されてどういった結論が導かれるかが、私は、そういう点が「真の市民参加」が行われるためには極めて重要だと申し上げたいのです。形式的に市民参加条例の条文を整え市民参加制度審査会の審査を励行していくことは勿論大切なことですが、「真の市民参加」により重要なのは、その審議会の審議過程に市民がどう参加するかということではないかと言いたいのです。当然のことながら、この際市民参加という点では、これに参加する公募市民の資質（特にその専門知識や何より市民を代表して発言する姿勢や自覚・意識など）や審議会の発言構造などは極めて大切な要素になると思われます。こういう審議過程などを、市民参加制度審査会の審査の過程で拝見する限り、一部には非常に充実した審議を市民参加が行われ内容豊かな報告書などの提出が為されているところもありますが、反面全般的にはまだまだ不十分なものが散見されます。審議会を例に挙げて説明してきましたが、パブリックコメントなども時に画一的な行政回答が多いなど必ずしも十分と言えないものも見られ、他の市民参加方法にも同様な傾向がないとは言えません。いずれにせよ、逗子の「真の市民参加」には、その実施活動段階での内容や質の充実という点で、更に進歩させる余地があるように思えてなりません。行政の責任だけでなく市民側の意識や自覚の問題が底にあることは重々承知しておりますが、今後の逗子市民参加の課題と考えています。

以上、失礼を承知の上で、率直な意見を述べましたが、市長をはじめ行政の皆様にはよろしくご高配のほどお願い申し上げます。

6 第8回の感想



【「1. 満足」を選択した理由】

- ◆ いろいろな人たちの意見が聞けて良かった。
- ◆ 会員が非常にまじめに考えている。
- ◆ テーブルの人の組み合わせを変化させる手法が良かった。
意見の蓄積を1枚の紙に集積するのも良い。
最後に30分とったこともよい。
- ◆ 若い人を逗子市ホームページで参加できるように内容を変更する意見がありました。
- ◆ 今日のグループワークがとても良かった。
- ◆ 初めての参加ですが、よい意味で新鮮で面白かったです。さまざまな出自、経験をもつ人々で話す機会はなかなかないので、この協議会として何らかのゴールに到達できるとより意味のある会になるだろうと思いました。
- ◆ 「市民参加」に関心をもった。
- ◆ 行政が発信して、「市民がこれを受け止め、満足する結論を」ということが力説された。
- ◆ 新たな募集で参加された方の感想をうかがえてとても大切な活動をしているのだと改めて感じました。
- ◆ 自分ができる「市民参加」は何があるか考える貴重な時間。
- ◆ 皆さんのいろいろな意見を聞くことができる。
- ◆ 初めて参加された方の意見がとても自然で興味深かった。
- ◆ 皆さんが問題意識をもっておられ、そこから学ぶところが多くありました。
- ◆ それぞれの意見をいう場所を得られたこと。
- ◆ 前半と後半のグループに市職員が2名づついたが、市民参加について熱心に考えており、市職員にとって市民参加は当たり前という意識が共有されていた。

【「2. やや満足」を選択した理由】

- ◆ ①話し合う時間が十分もてたこと。②テーマの結論を出すのが難しかったこと。
- ◆ 皆さん、なじんできて議論が活発になった。
- ◆ 引き続き参加者は一定程度残っていると思うけれども減っているのがさみしい。次回の自由参加に期待。「発表・取りまとめ」は市役所職員以外にしてよいのでは（より市民参加を深めていくため）、厳しいですけどね。
- ◆ 市民参加・・・人によって考え方が異なる。市民全員の意見をまとめることは行政のみでは無理。意見集約方法のやり方、一考要する。
- ◆ 「市民参加」は定義されていない。参加のかわりに協働はなお未定義はなはだしい。小さな声も出せて市政を反映できるようにするにはどうしたらよいか、というようなことの検討が不十分だ。
- ◆ いろいろな考え方を知ることができた点。
- ◆ 活発に議論できた。
- ◆ 自分の意見は言えた。ただ、高齢の男性たちはなぜ、「市民参加」とは関係ない話をし続けるのかと思った。
- ◆ そこまで話が進まなかった。グループの中で話が分かれてしまった（グループが分かれた）。
- ◆ 少しだが、意見を反映することができた。
- ◆ 各自がそれぞれの意見を述べたり、逗子の各地区の状況についての話が聞けた。
- ◆ グループが変わり、同じ意見が多く出たりしたこと。
- ◆ 具体策まで出せていない。
- ◆ いろいろな意見、考えが聞けた。